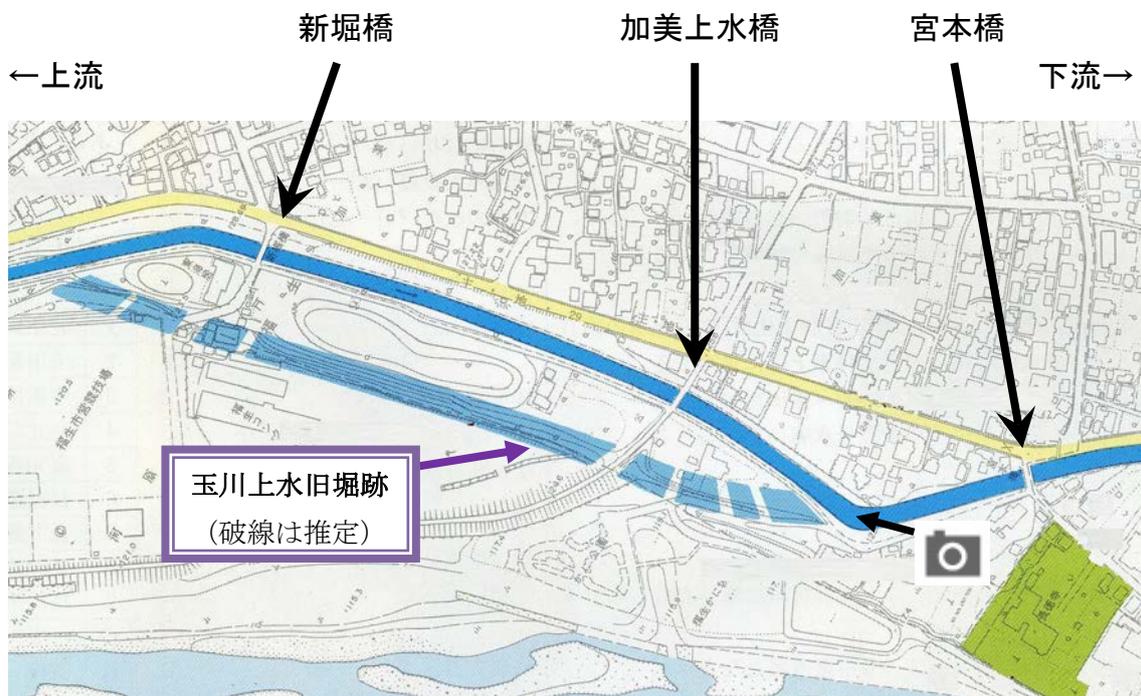


# もっと知りたい 福生市の史跡と文化財（1）

福生市観光ガイドマップ「史跡と文化財」の中から、より知っていただきたい内容を取り上げています。

たまがわじょうすいきゅうほりあと

## 玉川上水旧堀跡（加美上水公園付近）観光ガイドマップC-4



玉川上水旧堀跡位置図（『福生市文化財マップ』より）

玉川上水は完成から約 90 年後の元文 5 年（1740）に、多摩川の洪水被害を避けるため、一部区間で新しい水路に掘り替えられました。掘りかえられたのは現水路の宮本橋上流約 100m 地点から、新堀橋上流約 60m 地点までの全長約 600m 区間です。新堀の多摩川寄りには現在旧堀跡が残されており、史跡指定されています。

現在宮本橋から上流に向かうと、玉川上水が不自然に大きくカーブを描いている場所にたどり着きます。ここが掘りかえられた新堀と元々の玉川上水とが合流している地点です。

江戸時代の工事の様子に直接触れることで、当時の人々に思いをはせることのできる史跡の一つです。



不自然なカーブを描いている玉川上水

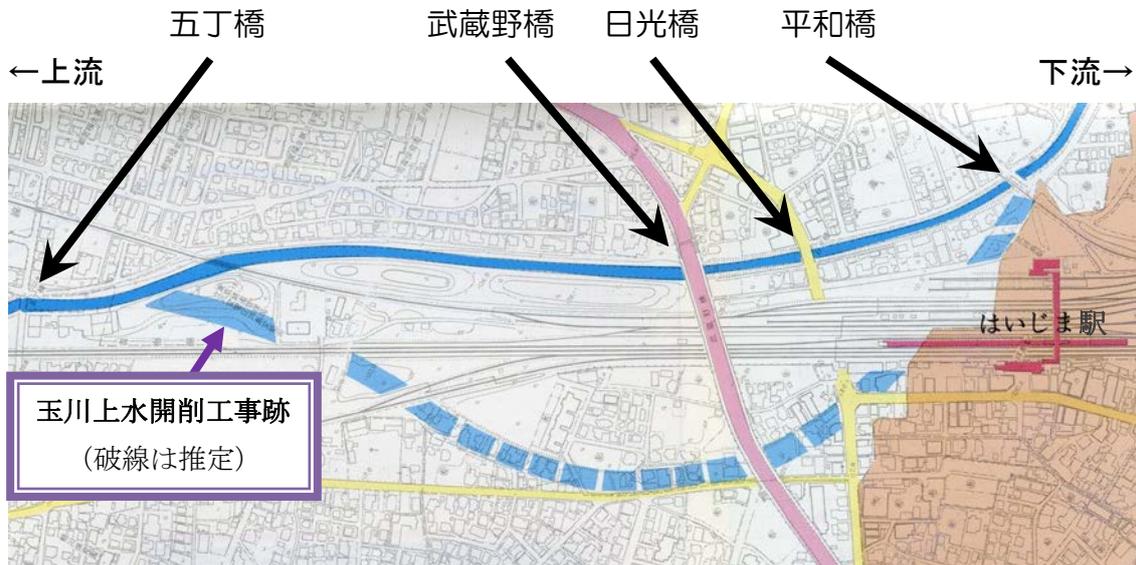
# もっと知りたい 福生市の史跡と文化財（1）

福生市観光ガイドマップ「史跡と文化財」の中から、より知っていただきたい内容を取り上げています。

たまがわじょうすいかいさくこうじあと

## 玉川上水開削工事跡（みずくらいど公園付近）

観光ガイドマップF-3



玉川上水開削工事跡位置図（『福生市文化財マップ』より）

玉川上水は江戸町民の飲料水不足を補うためにつくられた上水です。承応2年（1653）に着工し、翌年羽村から四谷大木戸までの約43kmが完成します。しかし伝説によると、この工事には2度の失敗があったとされています。その一つが福生市熊川の「水喰土」<sup>みずくらいど</sup>で、上水の水を流すと、この地点で水がすべて地中に喰われるように吸い込まれてしまったと伝えられています。五丁橋の下流約100m地点からは古上水堀が残されており、現在は「みずくらいど公園」として保存され、史跡指定されています。

現在残っている堀跡は公園内とその先の一部ですが、昭和22年に撮影された航空写真によると、かつては崖線に沿う形で堀跡があったこともうかがえます。

現在この水路のほとんどは開発のため見られなくなってしまったため、具体的にはどこで水が吸い込まれてしまったのか、また、本当に水路があったのかなど、みずくらいどに関して様々な見解が出されています。



昭和22年の航空写真